大正八年五月一日發行　大正八年四月二十八日印刷納本（每月一回一日發行）明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

Y.W.C.A.

基督教女子青年會

要目

第十六巻
五月號

ライオン歯磨

粉製 家庭萬人向！

煉製 趣味を喜ぶ方へ！

水製 食後寝前の含嗽用！

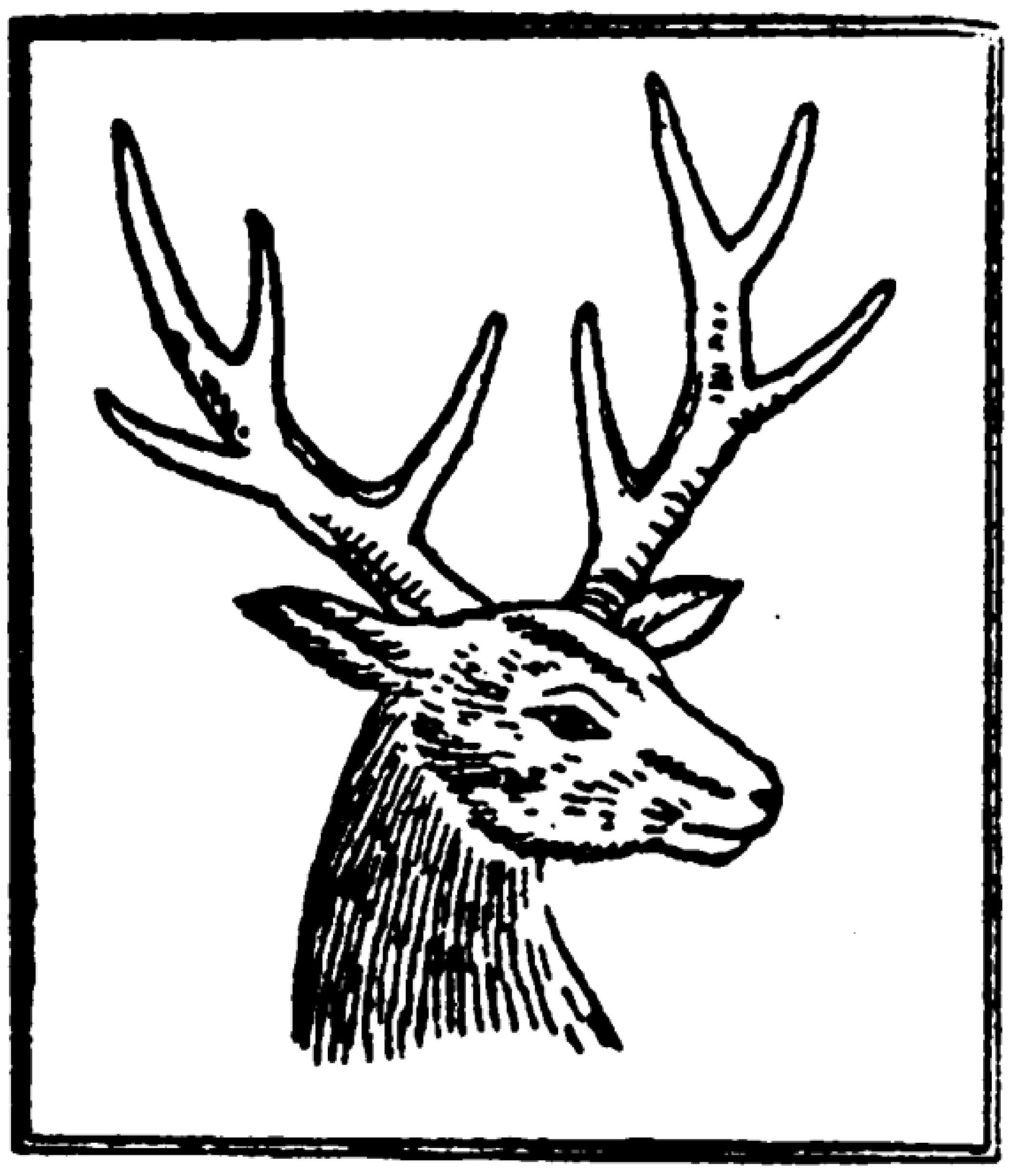
「萬歳」歯刷子 完全消毒の衛生楊枝！



東京市本所區外手町
ライオン歯磨 ライオン石鹸 本舗 株式會社 小林商店
支店 大阪市東區淡路町二丁目 名古屋市
上海・天津・漢口

女子青年界目次

第十六卷第五號
大正八年五月號



前付四

女子青年界 第十六巻 五月號 大正八年五月一日發行

會說

眼鏡の說

河井道子

鏡は人の姿の眞相をうつすものである事は云ふ迄もない事であります。處が其面に凹凸或は水銀の作用によつては、長い顔が丸い顔に見え、丸いのが長く見え、色の白いのが黒く或は黒いのが白く見えたりするのは、御互に經驗してゐるので有ります。曾て或公園での迷宮といふ、ある見世物の中に入りましたら、内部にありとあらゆる姿見が配置してあつて、其所に映る見物人の姿が百面相のやうに變化しますので、見物人が大笑ひであつた事を記憶してをります。

眼鏡にも近眼鏡、遠眼鏡と、差があつて度が異へば、物の眞相の誤つた見方をします、色眼鏡の如き赤ならば赤く見え、青ならば凡が青く見えると云ふやうに、迷彩に映ります、正直に云へば吾々は色眼鏡や、度の合はぬ眼鏡を掛けたやうな人間であつて、常に間違つた感情に捉はれて居ります。如何にしたらば正直に物の判斷をなし、人情の眞髓を見透す事が出來るかと云ふならば、常に心の眼が曇らぬやう、曲らぬやう、凹凸のなきやうに努力すべきであります、然し乍ら如何に努力しても、生來瑕のある魂で

あれば、如何しても其瑕を無くするわけには行きません、又生來視力の弱い又不透明な質ゆゑ、如何に磨いたとて曇なきを得ません、此場合は如何しても靈的專門家の指圖に從つて適當な心の眼鏡を得なければなりません、此靈的眼鏡とでも云ふのは色々あつて、或人は學問、或人は宗教、或人は美術と云ふやうな眼鏡を掛けて、世間にのぞみます、中には伊達眼鏡も澤山あります、此等は掛けて却つて有害で益々高慢、偏見、冷淡、猜疑、虛榮、虛禮、迷信等の度を增すのみであります。

或處に一人の青年が親讓りの不思議な眼鏡を有つて居りました。彼は人に初めて紹介された時はよく其眼鏡を使用たのですが不思議な事には、眼鏡なしで見た時と全く違つたものが映じます、例へば大成功者と思はれる盛裝した紳士を、其眼鏡を透して見ると、豚が人眞似をして兩足を金庫の中に突込んでゐる樣な姿に見へ、又有名な敎育者であるとて紹介された人を其眼鏡で見ると、其胸から蛇が出て近邊に毒氣を吹き掛けてゐる恐ろしい姿が映じ、田舍の不知物だと云はれる人を見ると、春のうらゝかな野邊の景色に變化したり、美人が醜婦に見え、痕ある顏が却つて天使の樣に見たりすると云ふ物語があります。此等は吾々の平生判斷してゐる事が誤らない目から見たら如何程違つてゐるかと云ふ比諭であります。我等はキリストを通して人物や物事を賢く正しく判斷し、善惡正邪の差別を間違はぬ樣にせねばなりません。キリストは我等盲人でさへ見える樣にして下さるのみならず、彼自身が正しい眼鏡で御座います。

然るに我々は勝手次第の眼鏡をかけます、或時は他人の眼を自分のものにして居ります、其故に其人即ち眼の持主の意見の外に何も見えません、其處で物の眞價を誤り、人格の見違をして大弊害や大損失をきたします。又或者は嫉妬、邪推、偏見と云ふ大毒な色眼鏡を掛けて四方を見ますので、非常に危險であります。是で個人を觀ると、其人の云ふ事成す

こと何一つとして自分の氣に合ふ事はなく、小供心が鬼心に映じ、祝福が詛呪にとれ彼我共に苦む源となります。此眼鏡で今度は世界をみますと、誤解、曲解、紛擾、戰爭と云ふ事になります、實に恐ろしいものではありませんか。

今日の大問題になつてゐる人種差別徹廢と云ふやうな、一見正義で解決がつき相な事件が、益々六ケ敷く、講和會議も此爲行惱みの狀態である、若し全世界が主イエス、キリストの見方で、人類を見たら此等は問題にはなりますまい、即ち天の神が父でましまし、人類的兄弟であると云ふ此大觀念が世界の根本義となつたら、此樣な六ケ敷い事件は起るものではありません、悲しい事には皆曲つた良心に樣々の間違つた眼鏡を掛けて誤解に偏見の度が强いが爲に、再び戰爭でも起し相な勢であります。

斯く申しはするものゝ此人類差別徹廢と云ふ事は人間がお互に進んで理想的の境地に達した時實現さるゝものにして、現今其方向に向ひつゝあるのであるが實行は早計でありますまいか。故に此を直ちに實現させやうと云ふ事は六ケ敷い事ではありますまいか、政治上の事は吾々の問題外であるけれども此を社會の狀態に鑑み、世界の文明の種類の差を普通一般に考へて見ると、差別の有るは無理からん事かと思はれます、例へば此頃日米間の交誼上むづかしい事件が數々新聞紙上に揭つてゐます。此もやはり人種差別と云ふ事に原因する事が多いやうです、若したゞ人種が異ふから、宗教が異ふから、習慣が異ふからと云ふ點のみの事柄ならば、誰しも不公平を攻め平等と叫びませう、併し、公平に私共日本の婦人一般を考へて見て道德上、智識上、世界の文明諸國の女子と肩を並べて遜色ないと云はれませうか、若し讀者中横濱、神戸、長崎等の港に於て海外に行く幾百千の同胞姉妹を見るならば、斯る婦人が日本を代表して吳れて有難いとは思はれますまい、却て反對に行かないで吳れゝばよいがと望む人が多いでせう、然し之も外見で判斷するのは惡るい故に、帶

裸體であらうと、立食しやうと、巫山戯て居やうと、精神が純潔で向上心さへあればよいではないかと、云ふ人もありませう、此時眞に公平の眼鏡を掛けて彼等をよく視察すれば、彼等の大多數は自己の姓名もろくに書けず、金と云ふ事にのみ心を勞し、清潔、正直、親切、進んでは貞操、愛國と云ふ分子は如何なる顯微鏡に掛けても見えないやうな者が有ります。僅にシベリヤ地のみでも五千人以上の日本醜業婦があると云ふではありませんか、支那と云ひ、南洋諸國と云ひ、日本醜業婦は到らざる處なしと稱れてゐます、幸にも米國邊には官權の力で斯る者の上陸を禁じてありますが、謂ゆる寫眞結婚で渡航する大部分の同胞姉妹は、道德、教育等と云ふ觀念は皆無のやうなものであります、唯生活して行く、金が欲しい、と云ふ位で、少し進んだものは虛榮に充ちて渡米するのだとは吾々も承知してゐるし又外國人もさう云つて居る事であります。もとより其内には之より磨れて立派な人物になる要素のある人もあれば、高き清き理想を抱いてゐるものも有が其は砂中の寶石の如きもので實に稀であります、此立場から米國人が日本の婦人を見て、凡ての差別を取り平等に取扱ひ、入國を自由に許可する事は仲々出來難いと云ふては只偏見と嫉妬や人種差別の輕蔑的な眼鏡ゆゑだとばかりも申されません、私共にも間違つたものをかけて彼等を觀てゐるのではありますまいか。彼國だとて基督の精神が遍く渡つては居りませんゆゑ、世界萬民を兄弟姉妹として取扱ふ迄には進歩してゐません、弱點、缺點の多い國であります。しかし主客の位置を轉じて日本に支那、南洋から勞働者や醜業婦や、無教育の女共がドシ／＼這入つて來たら、其等の國民を自由に入國させ平等な取扱をしませうか。此等を冷靜に考へて勝手な利己的な眼鏡をはづして人種差別問題を觀る時に私共は反省もし覺醒もせねばならなくなります。先づ國內に於て特殊部落人(ゑた)の取扱が改良され、道德上、上下貴賤男女の差別が撤廢され、高等教育上、男女取扱の差別が撤廢される事を祈り求めねばなりません、其より始めて、萬國に向ひ人種平等を絶叫しましやうではありませんか。

個人の事にも國際問題にも他人の眼を借りず、又色めがねを捨て、キリストに依りて公明正大な觀察を遂げ度いものであります。

講演

期待の苦痛

富士見町教會牧師 植村正久

「よしや身は世の有様に任せなん、心の奥をかくれ家として」と云ふ和歌があるが、是は天命のつきたので、仕方がないと諦めた心情である、我等の身の上に屢々苦痛を感ずる時に是は宿命の然らしむる處で、止を得ぬと諦めるのと、キリストか十字架上で、父よ我靈を汝の手に託くと申されたとを對照して考へるがよい。

「モーセ野に蛇を擧し如く人の子も必らず擧らるべし」、改譯には必らずと云ふ句が附してある、十字架はエスが期待されたものである、エスが十二歳の時の記事を見ても兩親が彼に付き疑をいだき家人に入れられない樣子があり、三十歳にして傳道を開始されると故郷ナザレ人には殺されんとするもの凄い雲行であつた。エスは平素イザヤ五十三章を心を用ゐて讀まれ、其を己が身にあて、いづれ悲慘な事が起ると覺悟されてゐた。荒野にて僅のパンを以て大勢を養はれた時も、自身が身を殺して人を救ふ暗示であると思召たらしい。かく常に傳道の間々も期待された苦痛があつた。

西洋のある詩に、一人の子供が手術を受ける前の夜、期待の苦痛を傍の病兒に訴へた、處が其は神樣に御願ひして寢ると屹度痛くない樣にして下さるとの慰を得て、彼は神が此手だと御分りなさる樣にとて、手術を受ける方の手を床の上に出して寢てゐたとの涙の出る樣な可憐な物語がある。かくエスにも十字架は期待された止を得ないものであつた。しか

し此不得止のにも色々ある。エスと共に十字架につけられた二人の悪漢の中、一人は悔ひて、我等が如斯刑罰を受けるは當然の事、免れ得ぬのである、身から出た錆で尤のことであると告白した。

人間にも受けねばならぬ苦痛がある、人間社會の關係上、色々の事情からさうなる事がある、假令ば、病氣が流行して感染つたと云ふも社會に居る人であるから仕方がない。又反對に善い事、幸福も分前を受けて、皆と共に浮び上る思をする。つまり親類つなぎて相持である。此關係上から自身には悪い事がないし、責任もないが、思掛もない目に逢ふこともあるが、所謂腐縁で切つても切る事が出來ない。

エスが罪なくしてあの様な悲慘な目に逢はれたと云ふも、彼は人の子として止を得ざるのではあつたが、唯人間との腐縁とのみに申すべきであるが。否エスの十字架は從順と奉仕の表明であり、又神の思召、神の愛から起つたのである、即ち神に愛なくば愛する者の罪につき苦痛を抱かれない、故にエスの苦痛により愛の十字架が顯はれたのである。

一體人を病からなり、道樂からなり救ふことは實に骨が折れる、苦痛を感ずる。エスが進んで十字架にかゝられ、あの苦痛を受けられたのは、我々の罪にはあの様な苦痛を受けねばならぬ性のものであるのを表してゐる。「父よ彼等を赦し給へ」とエスが祈られし時は罪のいかにも大なることを思はれた聲であらう。

我々は社會を矯正し改造するには骨を折らねばならぬ、人を救ひ世を清めて行くには必らず十字架がある。我々自身の人格をなすには金を火にかけて鍊へる如くになす必要がある。主エスですら鍛鍊不撓恰も熱火に金を鍊る様な經驗をされた。悲劇の最も著しい驚くべきものは、エスの十字架である。其を人が只芝居で觀る様な、物語でもきく様な小な苦痛の如くに思ふは實に恥べき事、恐懼多いことである。實に勿體ない、相濟まぬとの情よりして、我等も又其苦痛に與かる様心得るが必要である。

「汝等に賜ふ所の恩はキリストのために只これを信ずることのみならず亦これが爲に苦を受ることをも賜たれば也」ピリピ第一章二十九 （文責記者）

來らんとする新文明の根底（つゞき）

鐵道青年會常務理事　益富政助

六、ウイルソン氏と基督教

私はワシントン滯在中、大統領ウイルソン氏と共に同じ教會で、禮拜を共にするの好機會を得た。聞く、大統領はワシントンに居られさへすれば、如何に多忙の間にも教會には必ず出席される例になつて居るといふ。私が行つた時は、丁度其日曜からしてガスリンの節約が始まつた時であつたので、自働車の運轉は悉く休止して居たのに大統領は其夫人と共に定刻にはチヤンと出席せられた。白亞館から此教會迄は二哩もあるにそれを歩行して來たのである。又教會の講壇には美しい薔薇の花が生けてあつた。これは大統領並に其夫人が、毎日曜、其官舍より教會に贈らるゝのだといふ。以て如何に大統領が其教會に忠實なるかを察するに足る。更に其日の模樣を曰へば、先づ大統領は定刻前約五分に教會に入り、中央の前列から第三番目の腰掛に掛けられた。腰を下す前に先づ跪づきて、稍しばし默禱し、やをら立ち上りて腰を直し、牧師の祈禱に思を一にし、會衆の讃美歌に聲を合せた。やがて牧師の說教が始まつた。大統領は、まことに、謹嚴、敬虔なる態度を以て牧師の說教に耳を傾け、その說教がすむまでは、身動きもせられなんだ。彼は實に基督の使徒たる面影がある。私はかゝる大統領を有する米國民は眞に幸なるかなと痛切に感じた。

曾て畏友高橋本吉君の話を聽くに、氏が、曾てプリントン大學に學びつゝありし時、ウイルソン氏は其總長であつたが、其當時、高時君がウイルソン氏に對して『貴下は如何にして其人格を御修養になつたか』と聞きたるに、ウイルソン氏は答へて『我高橋君よ、誠によく其問を發してくれた、有り難い、

只残念な事には私は其御質問に對して答ふる事が出來ない、何となれば私を作つたものは私ではない、私の父である」と。何と床しい話ではないか。而して彼の父とは如何なる人か。これぞ即ち、英國から、米國ニユージャーシー洲のスタントンと曰へる小さな田舍町の長老敎會に赴任して來た一牧師であつた。

米國の大統領はウイルソン氏に至る迄十八代を數ふる。而して此間に無宗敎を標榜したる大統領は一人もない。否其中の四人迄は牧師館の隅から出て來たと曰はれて居る。ウイルソン氏は即ち其四人中の一人である。

要するにウイルソン氏は信念の人である。熱心なる基督敎信者である。彼は彼の尊敬するワシントン大統領の如く、リンコルン大統領の如く聖書の忠實なる愛讀者である。彼の日常生活、彼の政治的經綸、彼の外交方針、彼の世界改造に對する理想、彼の主義、彼の精神は一に其基督敎の信仰より湧き出でしものである。

七、フォッシュ將軍と基督敎

佛國のフォッシュ將軍は又熱心なる信仰家である。大戰の結果をして今日に至らしめたるものは七月十五日より始まつた逆襲が其功を奏したのであるが、其前夜將軍は、幕僚を司令部に集め、最後の計畫を說明し、さていふやう「予は今、予のなし能ふ凡てをなせり、殘るは卿等がなす所のみ、願くば次の時間、予をして靜かにあらしめよ」と。斯くて彼の姿は消へて見へなかつた。時に傳騎は重大なる報告を齎らして彼を訪ねた。將軍附の牧師は徐ろに彼を祈禱室へと導いた。そこに老將軍は跪いて祈禱に無中であつたといふ。嗚呼敬虔なる祈禱、嚴肅なる信念、これを以て彼は其聯合軍の全隊を統べたのである。聯合軍の大勝利は、彼の神に就ける信仰、彼の熱心なる祈禱の力によりて得られたものと云へやう

八、ロイド・ヂョージと基督敎

私は紐育市に於て數々ヂエヨエット博士の說敎を

聞いた。博士は倫敦の人、聘せられて紐育第五街長老教會の牧師となり、數年を米國に過ごされた。任期は充ちた。教會は頻りに重任を請ふたけれども、強ひて辭して倫敦に歸られたる博士が、倫敦に着かるゝと、首相ロイド・ヂョーヂ氏は博士のために盛大なる歡迎會を其官邸に開いた。首相の歡迎の辭は頗る熱烈なるものであつた。趣旨は『我大英國は今の時代程精神的指導者を要する時代はない、博士はどうありても、是非、今の時に歸國して貰はねばならなんだ。而して幸に玆に博士を迎ふる事を得たのは實に此上なき大英國民の幸福である』云々。ヂョエット博士は正統派基督者にして、基督を以て神の獨り子となし、神の子世を救はんために世に降り給へりとの信仰に立つ人である。此人に對し、此歡迎の辭あり、以て、首相其人の信仰、亦推して知るべきではないか。

九、結　論

クレマンソー氏に對しては與かり聞く機會を持たぬから、知らぬが、以上、此世界大戰及講和會議の三大代表者は、皆揃ひも揃ふて、熱烈なる基督教信徒である。

此講和會議は單純なる講和會議ではない。世界改造會議である。新文明再造の會議である。而して此大會議、所謂『第三次天地創造』の會議が斯くも基督教の主義精神を奉體して居る當代の預言者達によりて謀議せられ、企畫され、努力されると云ふ事は、誠に大なる神の御攝理であらねばならぬ。果然、神は眠りては居給はなんだ。神は『今も尚働き給ふ』。『神の國は近けり』黎明近し東の空、白くなりぬ。古き天と地は過去り、新らしき天と地は闢かれんとす。いよ〳〵基督の光りは全地に輝かん。讚美せよ基督の榮光を、感謝せよ神の恩寵を。『天地は盡きん、されど我言は盡きじ』と宣し給へるキリストの御言こそは眞に千代經し磐、彼こそは『昨日も、今日も、いつ迄も變らざるなり』。

眞面目なる男子の叫び

一會員

一日某大學生が訪問して婦人に對する要求を述べました。彼は第一に現今六年の普通教育を八年に延ばして貰いたいと云ふ説です。そして實科高等女學校のやうな處にも地理歴史を充分に教へて貰ひたい只實用的の裁縫や料理のみして居つて、何の趣味もないやうな婦人が出來るなら、この社會を改造するの改良するのと云ふ事は思もよらぬ事である。折角ボストンに何があつたとか、ヴエルサユに斯々であると云ふても、あゝそうですかと云ふ位の返事で終るやうな婦人に敬意を表することは到底男子に出來ない。どうしても婦人に教養が必要であるとは、彼の持論の要點であります。

　又言葉をついで云ふには、普通選擧を叫ぶにも、婦人に教育又選擧權を與へるのでなければ無意味であるが、而しまだ之は早過ぎると思ふ。兎に角日本女子は政治思想など何も持つて居らぬし、學校で此等に付何も教へてないから要求するのは無理であるが、高等女學校でも此種の教育をして貰ひ、結婚問題のやうな重大な事も、只兩親に全部一任して唯々諾々と云ふやうでは困るから、どうしても教養が必要と思ふ、而し今日の場合男女交際は實にむづかしいものだ、どうしてよいかお互に知る方法がないのである。この邊を指導者が開拓して呉れぬと、矢張り自分の意見などなくて娶る嫁ぐといふ事が繰返されるから、何か良法を講じて貰ひ度と一時間も述べて行きました。

　世間を見渡すと婦人の進歩教養などゝいふことは無視する輩、反對する男子の多い中に、又一方には

女子の高等教育、向上心、廓清等眞面目に願ふて居る男子のあることは、感謝すべきであります。前述學生の云ふには自分と同じ說をなす男子は可成あると申しました。そして若し教養のある婦人ならば、男子だとて勝手に我儘をしないのであるが、只食物の調理、衣服の整理しか出來ない高等女中的の妻になると氣をゆるめて知らぬ中に彼等を輕蔑する行爲に出るのであるから、何處迄も婦人の方で教育も教養も進めて貰ひ度と申しました。熟考するに日本の國自身が天祐と云ふか僥倖と云ふか、求むる以上に祝福を受けて居るやうに思はれます。例へば英國などでも、何百年と血を流して得たやうな立憲政體が、日本では數名の犧牲者を出したとはいへ、殆んど棚から牡丹餅のやうに轉げ落ちたやうなものだとは一般の評であります。此度の大戰爭に於ても、或人の評した如く日本が聯合軍側に立つたといふことは、全く僥倖である、何にでも獨逸贔負の此の國民が、彼の敵に味方したといふのは僥倖と云ふより他はない。このやうに日本の國は隨分天祐を蒙つて居る。そのやうに日本婦人は確に其恩澤に浴して、我々の願はざる先に既により以上のものを與へらるゝやうな氣が致します。歐米諸國の大學が婦人に開放される事は、幾多の犧牲者を出したので、漸く今日のやうに大學教育が男女平等に與へらるゝやうになりました。然るに日本では大多數の婦人は、女子高等教育の必要すらも、男子や他國人に主張されて、そのお陰でそろ〳〵と門戸が開かるゝ狀態であります。私の知人(男子)中にも婦人參政權贊成者が可なりありまして、却て婦人側の方には是等のことは馬耳東風の有樣であります、元より婦人は政治演說を聞く事も許されず、女學校の教科書中にも政治思想に關係せるものがありませんし、普通一般は婦人に政治などゝは水と油の相容れざるやうに思ふて居るのですから、私達に此問題が緣遠いのは無理ならぬ事であります。只考へて貰いたい事は既に男子側でこれ程迄に、婦人の權利を主張して下さる方があるし、

婦人の爲樣々の門戶を開放するに盡力さるゝ男子がありますのですから、吾々はどうしても自分達で婦人の價値、よい意味に於ける婦人の權利、婦人の廓淸、敎養などに留意し、開拓すべきものでありませう。餘り私共は順境過ぎる點があるのではありますまいか、この方面から見ると、外國の男子に增して日本の男子にして公平の考を持つ人は、より以上に日本婦人の爲を思つて吳れるのであります。昨今の新聞や雜誌に婦人問題の何かの方面が載らない事はありません、是も婦人自身が叫ぶ聲よりも男子が叫ぶものゝ方が多いのであります。このやうな狀態では何時迄經つても婦女子の地位が高まり、女子が敬意を受けるやうなことはありますまい。

勿論男女交際の如きは一朝一夕に改め得べきものでもありませんから、之は社會の思想を一變しなければなりませぬ。男女七才にして席を同うせずと云ふた敎訓の裏には、男か女か何方かゞ賤しい者であるといふ意味を含ませて居ります。小供の時から男の子は女の子を輕蔑し、賤しいきたない者のやうに思つたり、女の子は男といふものは是非の區別なく、只人を苛める者、力强いものといふだけの觀念を持たすのであれば、成年頃にお互が尊敬し合ふとか、相助けあふとか云ふ自然的の感情が湧き出さず、却て賤しい考がお互に往來するやうになつてゐる、時々男女交際など持出しても危險であります。家庭や日曜學校又は小學校に於て幼年の時から、「始めに神、人を男女に造り給へり」といふ思想で、神樣の前に於ては同等で、皆神の子であるといふ考を持たせ、それで敎育して來るならば、成年期に及んで身を誤まるやうな事はありませぬ。而し又或人は云ふでせう「基督信徒の間なら男女交際は容易に出來ませう」と私は否と答へ度うございます。確した兩親敎師等の監督があるか、赤兒の時から基督敎の空氣の中に育つなら別として、そうでなければ却て危險があらうと思ひます。日曜學校を敎へる若い靑年男女など、餘り馴れ〴〵しい言葉などをお互に用ひ、

兄弟姉妹だからと云ふて、禮儀を缺くやうな事は信徒の爲す可きではありません。如何に心が奇麗だからと云ふても御互に自由勝手に訪問し合つたり、散歩し合つたり、文通をしたりするのは、教會に傷を付けるのであります。

　或市で私は宣教師が「我校の女學生を何處〳〵の教會にはやられません、其處には神學生が澤山出入しますから」と云ふ言葉を聽いて、實に情ないと思ひました。宗教學校の女學生が神學を研究する男子の行く場所而も教會に行かれぬと云ふことが何處にありませう。所謂兄弟姉妹の意味を濫用し、不謹愼の徴があつた故、斯る禁止を先生が下したのでせう。故に何處迄も神を信ずる若き婦人は男子に對し馴れ〳〵しき樣子等をさけ、眞の尊敬を他より得るに足る者となるやう努めねばなりませぬ。是等の事が眞の貞操問題の援助となり、又障害となります。斯る點よりして家庭の良否が決せられます、是等の事が日本婦人の價値を上下させます。

　我々女子がたゞ受働的で眠つて居り、正義や眞理などに味方をせず、世界到る所醜業婦などが蔓つても、其等に就て何の制裁も加へず、何の輿論も起さないやうでは、輕蔑は止を得ざることゝ思ひます。若し國を愛するならば清い高い考を養ひ、清い高い理想を實行する者になりたいと思ひます。手近い處より諸姉が著手せられんことを祈つて止みません。

消　息（一）

○志立たき子夫人　四月十八日御主人及令孃と共に渡英の途につかる

○佐藤正子氏　雜誌係の同氏は四月二十一日田中忠二郎氏と結婚され青山南町六ノ百〇八に住居さる

○岡山よね氏　岡山縣立津山高等女學校に長らく教師たりし同氏は四月より佐藤氏の後任として女子青年會本部に就職今後雜誌部の擔任とならる

○川上末子氏（舊平岩）　神戸市外岩屋十八に住居さる

○岩澤時子氏　フレンド女學校教授の同氏は富山捺三氏と結婚さる

○川戸　環氏　同氏の郎君洲三氏は腦癌にて御重態にあらせらるゝも信仰益々堅く家人を却つて奬勵さるゝ程なり

○大谷ろく氏　數年以前米國羅府女子青年會のため渡米されし同姉は古谷氏と結婚されしが近來流行性感冒にて同地に永眠されたり

○坂西志保氏　東京女子青年會を辭職し再び母校捜眞女學校にて研究中なり

羊の玩具

恵笑子

英詩人グレーの「田舎の墓地」と云ふ有名な詩の中に誰も忘れ難い一句があります。「千尋の暗き海底に高價き眞珠の隱くれ居り、渺茫はてなき荒野にも人目にふれで香る花多し」之は何處にでも適用される言葉で、思ひがけない處に、歴史にも、傳說にも全く載らない人達の中に、實に麗はしい尊む可き人が多くあります、彼等の名は必ず天の御文に記載されて居る事でありませう。

浦潮には五千人の日本人が居つて、其中一千人近くは賤業婦の類だと云はれる其中にも、良妻賢母淑女佳人が隱れた處に御座います。今其中の一人を御紹介致しませう。

市街よりは少し離れて山腹に建つて居る煉瓦造の美はしい家があります。其裏口より狹い路を通り、溜水の前を過ぎて戸を押し開きますと外の穢苦しさに似ず光の照り渡れる奇麗な日本座敷があります。其處には眞丸と肥え太つた可愛らしい小さな小供等が數人ニコ〱として大人しく遊んで居られる彼等の母は確かに隱れたる價高き眞珠と云ふ可き婦人であります。或日この婦人が信仰の經驗を左の樣に物語られました。「早くより滿洲に居つたのでしたが、日露戰爭の前後種々なる動搖で日本に歸つて居りました。自分の伯母に熱心な信者があつて、平素信服して居りましたが、再び滿洲に自分が行く時に、一冊の聖書を貰つて讀み出したのが信仰の初めであります。年も若く、學問も經驗もない者が、外國の而かも開拓地で風儀の極々下品な處に住うとなると、其の淋しさ苦しさは一通りでありません。處が夫が普通一般の日本男子の樣な不規律の生活をして居るのが如何にも苦しく、どうかそれを直し度と云ふ願

が、毎日強くなりました。或日聖書を見て居つてふと目に付いたのはコリント前書七章第十三節以下であります。「婦不信なる夫を有てるとき夫ともに居らんことを願はゞ之を去なかれ、そは不信なる夫は妻によりて潔なり不信なる妻は夫に由て潔なればなり」それで何處迄も自分の道を守り、夫を神に歸するやうに努めることが第一の事と思ひ、夜分如何に遲くも帶を解かず整然として夫の歸りを待ち續けました。十二時、一時、二時と全く夜を明しても決して床に就かず、又それに由て夫に強く當る事もないやうに勸めました。夫は氣の毒に思ひ夜遲くなる時は、使をよこして待て居るなと云はせたものです。而し使が私の身裝を正して待て居るのを見て氣の毒がり、歸つて夫に戒めるやうになつたさうであります。私共の居つた土地に一人の熱心な信者の女按摩がありましたが、突然或日其人に會ふ事が出來、其後絶えず信仰の友として彼に導かれ教會にも出入するやうになりました。教會と云ふのは宣教師が一人居つて其方の小な家が集會所になつて居りました。四歳になる娘を日曜學校に連れ、自分も説教を聞き聖書を讀み、神に近づくことを勸めました。どんな事が起つても神が共に在ましてお守り下さると云ふことは、寸時も腦裏よりとれることがありませんでした。そしてどうか自分の夫を信者にし度と熱心に考へました。基督でさへ時々斷食をなすつたやうに見え、其後は斷食をして夫の決心を祈つたのです。一週間中二日三晩の絶食を全く一ヶ年續けました。夫は妙な事をする女だ、お前は男の子が欲しいからそんな事を云ふて嘲弄ひましたが、何時もまあさうでせうと云つて眞實の返事を聞かせませんでした。處が恰度一ヶ年後の降誕祭に、日曜學校からだと云ふて、戴いた毬や玩弄物を持つて喜んで居つた娘を夫は見て急に私に「お前の何時も願つて居る基督教に家族一同が入らうと思ふ」と云ふて呉れました時の嬉さは何とも謂ひやうがありませんでした。而し夫は用務で又旅行をし、旅行先では牧師も信者

もないものですから、受洗も後れましたが、石原牧師が御病氣で歸朝なさる間際に私共は洗禮を受けました。私共は悲しい事には、盲信者と云ふ樣に何も知らず又交際する人が信者でない爲に、信仰を養ふのみならず誘惑に勝つ事が出來ません。浦潮に參りて後も永く信者の方のある事を少しも知らず、漸く昨年頃からして同志の方々を知り、非常に喜んで居ります。二年前に男兒を失ひましたが、その病氣になつた時も、この兒は神に召されると私は初から思ひました。病名も分らず初は醫師も大した事はないと云はれましたが、どうしても私は神が召し給ふ樣に感じました。畏れ多い事ですが神の思召がありありと分ります。その頃私の家庭には非常に打擊が多かつたので、する事、なす事損耗を招き、どうしてよいかと云ふ立場になりましたが神樣は決して捨給はぬと云ふ信仰が勇氣を與へました。それは露西亞の玩具は皆獨逸から參りましたが、戰爭開始後は輸入が止り、全く玩具はありません。一體日本製のは粗製でとても歡迎されません、歡迎される玩具は布片で作つた動物の多いのに氣がつき、子供が日本から持て來た布の犬がありますので、それを解いて縫直して見ると、又ちやんと出來ます。之は神樣がお導き下すつた仕事と思ひ、それから布玩具を作り初めました。別に外に看板を出すでもなく家の中で靜に拵へて居りましたのに、或外國の貴婦人がお出になり、羊の玩具を持參されこれと同じのを作つてくれとの御注文でした。どうしたら出來るかと二晩寢ずに其型をとりました。元來この道には暗い人間で細工物などした事のない者がやり出すのですから、その困難一通りではありません。而し神樣のお助けで羊も見事に出來るやうになり、其後種々の動物の玩具中一番羊が好きで上手になりました。段々御恩寵があり手が廻りきれぬ程仕事が多くあつて、それで家計を繋いだ事もあります。苦難があればあるに從ひ神の御惠を多く感じ、今日では夫も數人の小供も又店の者も全部神を愛しその敎に入らせ度と思ふて、祈つて居るのであります。

修養の栞

一、神樣への手紙

大平みさを

私は今は三人の子持ちとなり、上の女の子は尋常二年、次の男兒は六つで、此春から幼稚園に出すつもりで居ります。其次が三つで和子と申すいたづらつ子でございますから、私は全然子供の事と家の事にかゝり切りで月日を過して居りますやうな有樣、時々はハッと思つてこれではと自分ながら自分のだん／＼墮落して行くのはではないかと、おそろしく感じる事がございます。何はともあれ靈の修養だけは積まなくてはと日曜日だけは、一日の中に僅の時でも得て靜思と祈りに費し度いと存じて居ります。今日午後敎會から歸りますと御誌が着いて居りました。子供等の遊び戲るゝ見張番をしながら直ぐ開いて拜見、諸先生のお話を伺ひまして私の心は其から其へと想を引き入れられて、只々キリストの御救の尊さ、有難さを深く感じて、淚を流したのでございます。私は聖書の組でお話を承ります頃もキリストの救、己が罪といふやうな事については、餘り感じる事が少いと申すよりは心に解しかねて居りましたのですが、近頃に至りては熟々キリストの御救について有難く、もしキリストおはしまさゞりせば、實に私はどんな人間になりどんな事をいたして居りましたでせう、其れをおもひますと私は只泣く外はありません。一家の中の責任ある一人となりましては中々につらき事、苦しき事にも出あいます。そして己が心の中に實にいまはしき念の起ります時に、キリストの鏡に照して何とみにくき自が姿よ、とはづかしくハッとおもつて靜に思ひ返すので、惡しき心を外に出さずにすみますが、矢張り私はもう心に罪を犯して居りました。又或時は己が行爲の表面は美しく人に親切などいたしても其實、心からでなか

つたりするやうな事もあり、ほんとに私はどうして斯くまでも罪深くなりし事よと空おそろしく、もし此まゝに己が感情の趣くがまゝに行つたなら、其結果は一層におそろしく存じます、あゝ此はまだ己が信仰と心の修養の足らざるのでございます、只神の深き愛を己が心の中に堅く受け入れましたならば、もう私は僞善の行もなす事なく、心に惡しきおもひも起らず、何人に對しても愛を以て接し、心からなる行爲をする事が出來るのでございました。今思ひ當るは、十年前青山の夏季修養會にて一夜寄宿に泊めて頂いた、私朝早く先生が隣室からおいで下さつて、私共にロマ書十二章を讀で頂いた事でございます、其時先生はこの處は少しむづかしくて、今あなた方には分りかねる事もあるでせうが、後に分る時が來ると仰せになつたやうに記憶いたしますが、實に私はやうやくと今になつて思ひ當り、再び繰り返して何だかはつきりと意味を解し得るやうに存じます。私は折角よい事に心附き一生懸命つとめやうと祈に誓ひながら、心弱くいつの間にか折角の決心も消えてしまふやうな事がございまして困ります、或時長男昌彦が五つ位の時と存じましたが、机に向つて鉛筆で何かしきりにモジャ〳〵字の眞似のやうなものを書いて居りますから、「何をかいたの」と尋ねれば、暫く困つて考へながら、「ボク一寸と神様にお手紙を書いたの」と申しました事がございますが、子供の心には何の考へもなく、只出鱈目に申したのでせうが、私のやうなものはこれからこの神樣への御手紙を實行して、折々に心に感じた事を夜子供等も寢靜まりて後ひとり心靜かに、己が中に省みつゝ神樣へ御手紙を認めましたなら、自分の進歩の上にも餘程効力があるのではないかしらと存じ、實行して見やうと思ひます。

二、陰の働

上野とし子

私は在學當時から隠れたる所に骨折らねばならぬ者として、作られたのだと氣付きました、西洋料理

の組に入りました時の教訓や、試驗の時の講堂の聖書ならべや、御料理番等は人の裏面を見せられしと共に陰働きのよい練習で御座いました。試驗のある前日でした、パンを造るのに二時間許り掛り、後の仕事を先生が六人ばかりに命じて早く御歸りになりました時の後の事實は、私の胸からぬけません、「ハイ、致しますとも」と嬉々として受けて、先生の御出での時に元氣なりし人々が、先生の御歸りの後皆我のみ忙はしと云ふ顔にて立ち去られし時の、淋しさ氣の毒さは忘れません、私は選科で二つ、他の方々は三つ試驗がある日でした。其時私は「主よ力を與へて人々の殘せし此仕事を、快よくなさしめ給へ、試驗に落第すとも、主の僕として落第せぬ樣にと、涙をふき〳〵お皿を洗ひました事！」私も才あらば同じ事せしならんと、人を咎めず己を試錬し、見えざる所に時間を取つた私はつまり、生存競爭の失敗者と思ひます、生存競爭に失敗しましても信仰を與へられ居るならば滿足で御座いますが、相變らず弱く信仰なく、進歩もなく同じ所に居る事を恥しく思ひます。感謝すべき事には此の失敗者によい友の多く與へられし事で御座います。

苦痛を覺えますから、全く無神經でもないと思ひます、然し尊い御仕事を作つて行く中に、なくてならぬ仕事であるならば、忍耐が出ます、私は青年會の活動的の裏に祈より祈に働く、奥深い仕事と交りが大切であり、また進歩が緩い樣でも確に青年會の根を強くする事と、信じて居ります、何事でも三度の食事の如く、力を仰ぎ求め、祈りましたならば、荒れた中にも一つ位美しい花の咲いて居るのがありますと思ひます、祈に繋れた仕事に失敗はないと思ひます、ある時は祈つた樣でも神と自分との間に壁が出來たのを知らずに祈つて居た時と思ひます。

續く樣な靜な豐な成功と思ふ樣な集會の與へられし、背後を考へますと、熱心に祈つた實でないのは有りません樣に思はれます「爾曹我を離る時は何事をも爲し能はざるなり」之を私の今年の標語として選びましたのは、去年九月以來の經驗から、種々學びました結果で御座いました。

ミリケン女史

三谷民子氏談

【副報】

ミリチン女史は明治十七年、齡僅に二十三歲にして日本に渡られた、此先一年既に來朝の志ありしもあまり弱年なりとて一年見合せ、此間に娛姆科を修められた。女史來朝當時は女子學院に幼稚園を設けありし爲其主任として盡力される事になつた、此より三十五年間の主なる働きは、教育及び傳道事業で獻身的に從事せられ、佐渡に於ける傳道の如きは、女史が私財を投じて盡心されたもので、今日の傳道の基礎は全く女史によつて築かられたものである、其動機が越後から東京への旅行の途次、汽車中で佐渡の人と話をされし事であるとは、仲々面白い事實である。

其人となり

女史は極めて勤勉、義俠心のある謂ゆる江戸ッ子氣質の人で、老幼男女、何の差別なく、必要の場合には一肌脫ぐ人である。又決して蔭口を云はぬ人である、吾々が如何に苦心しても美點を見出すことの出來ない人に必ず美點を發見して、容易に決して如何なる人をも捨てぬ女史の偉大は、到底眞似の出來ぬ點である。女史は何點から見ても詩人で、事務的の事は下手であるから、世事には疎いかも知れぬ、全く白百合の花の樣な清楚な人である、仲々の讀書家で多くの國語(ラテン、グリーク、日語、佛語、スペン語)に通じて居られる、詩人ブラオニングがお好きで吾々が同詩人に對する趣味はミリケン女史に於て注入されたものです。

至孝の人

女子は至つて孝心の深い人で常に母堂の事を忘られぬ、此度吾々日本人のみの手に因つて集められた三千圓は同母堂を故國に訪問される資に供したいのです父君は神學博士で曾て日本に三年間滯在の後死去され青山墓地に埋葬されてある、女史も亦我日本の土となる御決心なりとは聞く吾々をして自ら襟を正さしむ。(文責筆者)

ギヨン夫人傳（つゞき）

森田松榮

「わが餘生を、どういふ風に過さう?」彼女は自己の感情や趣味によつて決せず、祈つて、靜かに、聖旨の示される時を待たうと決心した。秀でたる才能、強烈なる感情、深き趣味、大なる富を有する者にとつて、一見無爲不活動と思はれる日を送ることは、決して容易ではない。それに彼女は極めて強い意思を以てゐた。然し、彼女の願ひはそれを神の意思と一致させること、神のものとなすことであつた。が、これは決して、單純ですぐ出來ることではなく、思想上、幾多の曲折を經なければならなかつた。

第一に彼女の念頭に浮んだのは、一切を處理して、修道院に入らうかといふ考であつた。彼女の信仰を高め深めて、直接間接、甚大な感化を與へた、敬虔で學識ある人々――彼女の姉、友人等――は修道院で世を過した。然し、今や一家の長として、幼き子等に至大の責任を有つてゐた彼女は、心に修道院生活を憧憬しつゝも、是は神の聖旨ではないと悟つた。

この時、この聰明な教養の深い中年の彼女に、三人の求婚者があらはれた。その中一人は、殊に秀れた人物であつたが、彼女は「自分は神ばかりのもの」と決意して、再婚を拒絶した。

この頃は、幼い子供達も、ごく手のかゝる時を過ぎてきたので、彼女は、程遠くない森に入つて、祈禱と默想の、祝福に滿ちた時を過したのも屢々であつた。彼女は召されてゐること、十字架が行途に立つてゐることを確かり感じたが、どこへ召されてゐるのだか、どんな十字架だか、わからなかつた。彼女は、祈りつゝ、ひたすら時を待つてゐた。

彼女は或日用務があつて巴里へ行つた時、ある敎會へいつた。天主公敎の慣習で、彼女は其處にゐた一人の聖職に、懺悔をした。彼女はいふ、
「我は、彼を前に見しことなく、この後會ひしことなし。我は單純簡單なる懺悔をなしたるほか、彼に談話せざりき。さればわれは彼が「我は卿が、處女なるか、夫人なるか、寡婦なるか、知らざれども、神が卿に求め給ふことを、卿がせらるゝやう、熱誠もてお勸めす。他に申すことなし」といひし時いたく驚きたり、「師父よ、我は幼き子等をもてる寡婦なり、彼等を敎育するに心を用ふるほか、神また我に何をか求め給はん」とわれは答へしに「我はそれに就いて何をも知らず。神もし、卿に求め給ふところを、卿にあらはし給はゞ聖旨をなすにあたりて、卿を妨ぐるものは、世にあるべからず。この爲には子等をも棄てざる可らず」と彼は答へたり」。

彼女は深く感動した。たゞ子等と別れるといふことには、思ひ惑つた。我手一つに愛撫し養育してゐる父なき子等、我が慰め、わが望みを、棄てよとか？然し、それがもしも聖旨であつたならば！「我よりも息子または娘を愛するものは、我に相應しからず」（マタイ傳十〇三八）

フランスの國境、ゼネヴ附近の傳道の使命を、彼女は感じた。折よく、外國傳道に行く途で、相談に立寄つた人にも、打明けて意見をきゝ、その勸めによつて、彼女が志ざしてゐる地方の監督に會つて、相談することゝなつた。監督は隔意なく、親切に、彼女に會つた。彼女は、自分の立場、傳道の使命を受けてゐると感じてゐること、神から與へられてゐる財を以て、傳道の志ある人々の爲に、一の館を建てたいこと等を話したところ、監督は一々賛成した。そこで、彼女はこの監督と、コンベ神父との同意を得、フランスの東端ゼワクスに移り住んで傳道することに決めた。一家の始末、長い旅の用意にとりかゝらうとする時、嚴寒にあたつて、巴里と郊外の人民は、饑饉に苦しめられた。彼女は直ぐ樣、此

らの人々の爲に盡した。かなり長い間、毎週、家を開いて、施パンをした。人知れずした救助も數々あつた。貧しい男兒や女兒達の爲には、仕事を見付けてやつた。彼女は、單に物質上に留まらず、個人傳道をして、神のゆたかな靈の糧をも、人々に與へてゐた。

いよ／＼傳道旅行の日が近づいた。神から與へられてゐた莫大の富の幾分を、彼女は、親戚と友人とに分つ手續をすませた後、信仰の點、教育の點、萬事申分なく世話を賴めると信頼した人々に、二人の子息を任せ、息女を伴つて出發することゝし、心殘りなく用意が出來た。

然し人の心は複雜である。使命の意識、傳道の覺悟、先輩の賛同はあり乍ら、なほ反對する人々もあつたが、或日ふと、今とらうとしてゐる道は間違つてゐはしないかしら、といふ疑の影が生じた折も折、懇意な一聖職が訪づれて、反對意見を述べたので、彼女は稍々、氣が抽けさうになつたが、聖書に敎を受けんものと、開いた。彼女はイザ書を開いた。

「汝水中を過ぐる時は我ともにあらん。河のなかを過ぐる時は水汝の上にあふれじ。汝火の中をゆくとき、焚かるゝことなく、火焔もまた燃えつかじ。我はエホバなんぢの神イスラエルの聖者なんぢの救主なり」（四十三章）

「かく讀みし時、わが心は强められぬ。わが疑惑は飛び去りぬ。神に頼らば、なにか怖るべき。よし人々の眼には愚者と見えなんとも、神の僕たることの意義を知らざる人々の非難には心を留めず、神の聖旨を受け且つ從ふ爲にわれは行かんと決心しぬ」。

親子を結ぶ愛の絆は强い。血肉の愛を、聖旨に代へんやと、決意した彼女も、二人の子息を、いかに信頼し得る人とはいへ人手に渡して別れるのは、云はう様なく辛かつた。「傳道の使命に出發する前には、折ふし心に疑と試煉ありしかども、一度出立ちし後は、これが聖旨なることをゆめ疑はざりき」と書いてゐるのに見ても、遠く子に別れゆく母のこゝろが偲ばれる。

彼女が巴里を出發したのは、一六八一年七月頃であつた。自分の所有とは思はず、神より委託られた物として、賢く、寛大に、彼女が常に扱つてきた彼女の財産を、近い親戚の中で、利用しやうとする者があつて、公然の出發は、危ふかつたので、彼女はひそかに出立した。嘗て自分が社交界の花形であつた地、又幾多信仰上の經驗をした地、處女として、妻として、母として思ひ出の多い巴里を後にして、親戚の眼をもしのんで、今彼女は、前途に何が待つてゐるかも知れない傳道旅行に出で立つた。けれども「聖旨ならばわれいとはじ」といふ覺悟は充分に出來てゐた。同伴者は、五歳になる彼女の息女と、一人の修道婦と、二人の下婢とであつた。彼女はこの時三十四歳、今迄にも、嬉しいこと、憂いこと、樣々の經驗がなくはなかつた。然し、彼女が行途にありと豫覺してゐた十字架は、この時から、次第々々に見え初めてきた――漂泊と、迫害と、遂には、投獄の十字架が。（續く）

同胞の覺醒

櫻府　宮川氏談

米國櫻府は隨分排日の盛んな土地であり、又日本人の中にも、獨身者の風來者が多く、色々惡評を受けても、仕方ない點が多かつたが、年々同胞は覺醒し、近頃面目を改めたのは喜ばしい事である、既に三四年此方著しく、緊張して改革を計つてゐるから、確かに有望な狀態になると思ふ。寫眞結婚にての入港者を、禁ずる事を英字新聞で見受けたが、之は其意見を政府に向つて、述べたのみて、其成功は、未だし、近々實現されるであろう、然しお互に此點について注意せねばならぬ。

加州邊ではまだ甚だしい問題は無いが、ハワイでは、日語學校が非常に面倒な宿題になつてゐる、此種の學校敎師は、米國政府の試驗を要すと云ふ事て、之には非常に日本人に打擊が來ると思ふ、其一原因はハワイの日本人の學校は、主に佛敎徒の經營にかゝるもので、陛下の御眞影を奉置し勅語を奉讀し、全く國內にある如き敎育をなす點よりして、國內に又一國を造る傾向を怖れて、斯る問題が起つたらしい、其先例としては獨逸系の者が米國でなるべく獨逸國の思想を鼓吹したので、幾分斯くの如き思想を怖れてゐるのではないかと思ふ。此問題は早晩加州にも起るであろうから吾々皆々注意すべき事である。

同胞の覺醒

高橋本吉氏談

近頃長尾半平氏の事につき、基督者たる點より、中傷的の言葉が數々新聞紙上に見えて居るが、當局者の主たつ人々から直接に聞くと長尾氏がシベリヤに行かれたので、日米間の感情も大に融和し行惱んで居た鐵道問題も、美はしく解決しつゝあるので實に大使命を果したのを欣ぶとの事である、故に信徒は長尾氏のために愈々祈り、如何なる批評があろうとも益々其立場に於て、十二分の活動を遂げらるゝ樣陰より祈るべきである。

招れし時

渡邊百合

「御伯母さま、大へんな事がありますよ、西洋の先生から私等に御飯に來る樣につて御招を頂きました、如何しませう」と愛くるしい丸く肥つた十四五のりんちやんが息もつきあへずとんできました。
「それは大變に結構、是非上る樣になさい。」
「でもおばさま、西洋料理なんてほんとに食べた事が無いんですもの。」
「りんちやんは、いつでもバタや肉が好きで時々はアイスクリームがほしいなんて、ハイカラぢやありませんか。」
「好きだつて西洋人のお家などで頂いた事がないんですもの心配ですわ。」
「一體だれ〳〵が御招をうけたの。」
「日曜學校の私の組の人等四人、大人なしですつて」
「好い事、私も招かれたい、他の御友達は西洋の禮儀など御存じですか。」
「誰も知らないので困つてゐるんです、おばさま教へて下さいませんか。」
「そうね一通り心得て居なければならない事だけ教へて上げませう、先づ第一に上るとか上れないとかと御返事を出すのが大切な事です。」
「あらそうなの、御出なさいつて御仰るのですから其日に行けばいゝんぢやありませんの。」
「否、御招待狀の時はいつでも御返事の手紙を直に出す可きものです、極親しい仲ならば電話でも御傳言でもよろしいけれども目上の方々には整然書くものです。」
「先日買つてきた空色の紙に桃色の狀袋を用つたらば奇麗でせうね。」
「正式から云ふとりんちやん、白い紙に白い狀袋

が一番よろしいんです、餘り粗末な紙や紙切などに書く事は失禮です、普通の手紙でも目上の方に出す時に色紙を用ふのはよい事ではありませんよ。」

「まあそうでしたの、私共は無地の紙よりいろ〳〵の繪や色のついてた方がハイカラだと思つてよい時に用つておりましたの、これから氣をつけませう、それから如何するの。」

「着物の事を云ひませう、絹の立派な着物など着る必要はありませんが襦袢の衿など垢のついていないものを御着なさい、よくお白粉の垢がついていたり、頸から見える肌襦袢の衿が黒かつたりすると大變に不性に見えます、髮などキチンと結ふて手や顔は清潔に洗つて、指にインクの跡をつけてをつたり爪を生して垢が黑く見えたりする事は大禁物です。」

「お友達の芳子さんは、こう云ふて居らつしやいました、西洋人は少し髪などさがつた方が御好きだつて本當ですか、おばさま？。」

「それはとんでもない間違です、西洋の方の毛は日本人よりも柔いからフワッと結へますので日本人の樣に櫛の跡などたてられないしまたそうたてたのなど好きでない處からそんな間違つた事が傳はつたのでせう、西洋の人は日本の女が頸や顔にバサ〳〵と毛がさがつてゐたりするのは大變いやがります、硬い毛でも整然と落ちない樣に結ふてをる方が好なんですよ。」

「富子さんは西洋人は濃いお化粧をしておるのが好きだつて云つて居らつしやいました。

「そんな人もあるかもしれませんけれど普通はそうぢやありませんよ、日本の若い女の子がお顔面の面の樣に濃く白粉をつけたり、頸に濃く塗つて半衿の汚等を見ると心が正しい女かしらと疑ふと云つて居ますから、りんちやんなど血色の好いその顔にお白粉等塗らないで清潔にして居れば其より美いな事はないんです。」

「ぢや安心しました、お白粉などつけないで香水でもふつて行きませうね。」

「妙な事を云ふのね、香水なんて何を思出したの。」

「香水は招かれた時などよいでせう、女學校の先生方は式の時や他所に御出の時はつけて居らつしやいます。」

「其は時と場合と云ふものです、夏汗臭氣時には少しはつけてをる方が心地が宜しいし、また外にでも行つて風の吹く時には香水のついたハンカチなど持つてをるのもよいものです、または病人の寢床に少し位ふつておくと氣もちの好いものですが食事の時等にプン〳〵と香などさせるのはどんな上等なのでも嫌氣をさせるものです、平常の時でも香水を餘り香はせるのは下品ですよ、而もりんちやん等子供で御金が無いから安いのなど買てきてつけたりすると他の人が迷惑をします、まあ何でも香がないのがよいのです、是非するならば淸潔の香に限ります。」

「それなら一體香水は何故出來はじめたのでせう。」

「面白い事を考へますね、よい香は誰だつて好きでせう薔薇や菫の花の香を嫌ひな人はありますまい、人が好きだから用ふ樣になつたんですけれども、如何してと云ふ樣になると歴史的の事が聞きたいんでせう、これは今、平和會議の開かれてるパリーのウエルサユーと云ふ宮殿がありませう。」

「むづかしい話になつて來たのねおばさま——香水と宮殿と關係がありますの。」

「まあ聞いて居らつしやい彼の宮殿を建てたのはル井十四世と云ふ佛國の王樣でした。」

「エー歴史で習ひました、佛國の全盛時代ですつて」

「其通りです、このル井十四世はいろ〳〵な宮殿をお建てになり華美な生涯を御送になつた方です、今でも佛國の立派な宮殿などは其時代を忍ばせます、が是等の美しい宮殿は今日の衞生と便利と云ふ點には缺けてをります、りんちやん家を建てる時衞生に關して大切なものは何でせう。

「臺所……わかりませんわ。」

「さあ其は下水と云ふものです、つまり臺所の流水や御不淨の始末等が大へんに大切なのです、今代は

汚いものはためて置かないで流してしまひます、又排水の工事がよく出來て居ますので路の兩側の溝のあいてゐる街は日本位のものでせう。」

「おばさまルヰ十四世の話からとびましたのね。」

「それで排水と云ふ事がルヰ十四世などの宮殿によく出來てをらなかつたのです、大勢の人の出入する美しい御殿等にとかく臭氣があるので如何する事も出來ず、よい強い香で惡いにほひを打消す様にとて出來たのが香水の緒です。

「大へんに面白い話ですね、もう香水がすんだら早く他の事を敎へて下さい。」

「そう〳〵香水のついでにハンカチの事を云ひませうか。」

「エーあの絹の桃色のハンカチを此度こそ用ひます。」

「何？　りんちやんは餘程桃色が好きね、ハンカチはいつでも眞白な無地がよいのです、御飯によばれた時など尙更白い淸潔なのを二つ程もつて御行きなさい、汚れたのや皺だらけのを袖から出したりするのは失禮です、鼻をすゝつたりグツ〳〵いはせたり、手で撫でたりする事は無論よりいつでも惡い事ですよく學校などの講堂で生徒がスー〳〵いはせてをるのなど大變に聞き苦しい事です、よく氣をつけて必要な時にはハンカチをチヤンと御用ひなさい。」

「はい、まあいろ〳〵覺えなくつてはならない事がありますのね、一人でうかゞふのはおしい様な氣がします、御飯に招かれた御友達を皆つれて來ますから御食事の仕方なども敎へて下さい。」とニコ〳〵しながら何だか嬉しさうにして歸へりました。

通信欄

○基督教女子青年會本部　は米國より四人の調査訪問委員を迎へ仲々多忙でした、四月は東京で學校、病院、工場、其他を案内し、なるべく廣く多方面の事業を紹介した、四人は二十五日小山富士紡績を參觀し二十六日より日光見物、三十日は名古屋、五月二日三日は近江八幡、四日より大阪、神戸、五月中旬に京都より廣島、下關等を、視察し其より上海に行かれる事であります。四月二十四日には東京にある日本人の教役者二十數名を招き、同二十九日には宣教師二十名許りを青年會本部に招き米國の調査委員と女子青年會の協議を開き、會に對する有益なる意見を伺ふ事が出來ました。

○紐育より　聖書教授ミス、アダムスが二十六日に上陸になる事です、同氏滯在中多くの聖書研究會を其指導者の爲に開く豫定です。

○以前東京青年會幹事　ミス、ペーヂも同日御上陸でありますから大歡迎をやる考へです。

○三十日　には名古屋の金城女學校の依賴により同市の公會堂で米國婦人の働につき前述の四人のお客樣と河井幹事講演をいたします。

○五月一日　から三日まで有馬で外國幹事の修養會を開く豫定で御座います。シベリヤに居りました、ミス、フオンダも同日迄一旦日本に歸る事になつて居ります。

○女子學院教授　ミス、ロンドンと廣岡夫人御令妹一柳まき子氏を、中央委員に御願ひいたしました。

○本年の夏季修養會の事につき、委員達は非常に苦心して居ります、十中八九迄七月下旬東京に開く事になつて居ります、確定次第趣意書をして今より來會の準備を姉妹方に願はんとして居ります。

○之につけても成べく　早く修養會の場所が與へられて欲しいものであります。

東京女子青年會諸報告

新卒業生送別會　牛込、小石川、神田三寄宿舍々生

にして本年三月市内諸女學校卒業の榮冠を得し者十九名、これら姉妹等の爲三月二十一日會館食堂に於て晩餐會を開き、僅の記念として「日々の力」一冊づゝを呈す、食後懇談會を催す。委員松宮信子夫人の卒業生に對する親切なる訓辭につぎて新卒業生數名の感話あり後熱心なる二三名の祈禱をもつて閉會す、右卒業生中なほ高等の學問を究むる者、家庭に入りたる者、又地方女學校教師として赴任せる者あり。寄宿舍と云ふ一大家族中より年々斯く多くの姉妹等を諸方に送るを思ひて愈々姉妹等の前途に祝福多くあれかしと絕えず祈りて止まず。

會長 志立タキ子夫人送別會　櫻花滿開の頃其の色にちなみて二階廣間を飾り御渡英の門出を祝し本部東京諸委員職員一同にて四月十日晩餐會を開きぬ、先づ室内に六ケのテーブルを置き夫人乘船熱田丸着港の名を附し、食事一コース毎に夫人は各テーブルに移り遂にロンドンに着、英國兩陛下拜謁の幕にて食事を終りぬ。三谷、ミス、スタフォード兩姉の送別の言葉につぎて河井幹事の感謝及送別祈禱ありて後ミセス、ウォーカの獨唱、志立夫人離別の辭あり一同讃美歌にて分れたり。

復活禮拜　四月二十日(日)午後三時より白百合及マーガレットをもて飾りたる階下廣間にて頌詠をもて開む。鈴木幹事司會、イースターの傳説の說明よりミス、フユステド獨唱、河井幹事の御話、瀧澤孃のピヤノ獨奏等の順序にて終り一同主の復活を心に新に覺え力を得て散會す。出席者百五十名。

總會　第十三回東京基督教女子青年會總會を來る五月　日會館に開催の豫定、一ケ年間事業報告、役員改選、名士講話、音樂、及懇談會等の順序なれば今より準備せられて當日は是非々々多數會員の御出席を希望します。

中西司娜子記

新學期の教育部及學生部

英語の組　女子青年會英語會より十名の姉妹を東京

女子大學、日本女子大學、女子英學塾に送りし事と感謝す三月末終業式の代りに英語會の級會を催す、數名の方の御盡力により僅十五錢の會費にて晝飯、果物、菓子等を十分頂き、共に親しく語り、歌ひ、遊び、協議し閉會せしは六時近くなりき、當日出席せる者三十五名、此日各組より級幹事を選擧し、此の幹事會を一箇月一回と定む。第一回は四月七日に會し級の發達、發展につき、精神的向上、又協同等につき自由に協議し且祈禱して閉會す。組は又一つ增して七組、生徒數百七名。

西洋料理の組　又新にファンシーディン講習を十四名の會費にてはじむ。

新上京生歡迎會　志を立て故郷を離れて上京せる若き姉妹方に、彼等と何時にても兩手を開いて歡迎する基督敎女子青年會のある事を御紹介すべく十二日の土曜に歡迎親睦會を開催す。當日のホステスは英語の組の方々。對話、假裝行列、シュレードなど種々のプログラムあり、又音樂學校の秋元俊子姉上野女學校の鈴木姉のボーカルソロ、ピアノソロにより會も一層賑やかされ、その後には戸板女學校の森道子姉の如何にして學生が勉强以上の事をも考へざるべからざるか、人間の眞の要求、魂の問題につき熱心なお話あり、つゞいて加藤幹事の感謝祈禱あり、最後に二三の遊戲をなして幼子の如き心地して四時半頃各歸路につけり。當日全體の出席は百五十餘名、其の中始めて女子青年會に來りし者七十六名、此日代表されし學校數十四。

英語社交會　同じく十二日の夜東京女子青年會英語社交會の主催にて活動寫眞をなす。寫眞はピクトリア、バンクーバー、ラッキーマウンテン其他の風景。汽車にも汽船にも乘らずして此夜出席せし八十餘名の心は遠きカナダの地に旅行す。未だ行かざる外國に一層のなつかしみをおぼへ、他日此等の場所に足を踏まん事を希つて八時半頃別れり。

信者敎師會　十九日第四回例會を催す、學期はじめにて多忙の爲出席者少數なりしも此會の前途、

事業、計畫につき熱心なる協議、自由なる議論あり、後立敎女學校の川合友子姉の支那問題につき御話あり、又ミスカフマンより人種差別問題につき信者敎師は如何なる意見を持つべきか、如何なる態度にて生徒に接すべきや等極めて重大なる御注意ありたり。まだ經驗少き、小さき此の會が神の御導きにより強き力ある有效な團體とならん爲會員諸姉の同情ある御祈りを願ふ。

市部報告

鈴木記

十七日の正午を期して一行四人は東京ステーション樓上の中部管理局保健課を訪れました。應接間に約二十分ほど待ちました頃に招せられて參りました室は時計臺下の見晴の佳い四階の事務室でございました。室には既に二十有五名の御婦人方と四五人の男子の方とがお待ち下すつて居られました。米國から視察に來られたホース幹事のお話がありました。極く短い時間で出來るだけ多くの事を聞き度いと望む者に對して最も適當な御話であつたと存じ上ました。通譯ともに二十分間で終りました。聞く誰方のお顏にも何物かを握らずにはと云ふ熱心な御樣子が現はれて居りましたのが此方面には經驗の薄い幹事等に力強い感じを與へました。

二十一日午後四時から萬世橋驛構內の中管調查課でお集りがありますので十分前に驛に參りました。此日野依課長お休みとの事にて伊藤書記、森谷書記の御兩人が種々と御世話下さいました。四時から會が始まりました。森谷書記の司會の下に。開會の辭に代へて同氏の我靑年會の紹介があり、引續き米國からの視察員の一人であらるゝミセスウオーカーは美しい可愛らしいラ、バイの歌をお歌ひになりました。一日の事務を了へられ疲勞して居らるゝ皆樣を二十分でも三十分でもお引き留めする事が如何にも心ない業の樣でありましたが、此のラ、バイを聞かれて居られた皆樣の御容子では、お皆めして聞いて頂いた方が、よかつたと思ふほどでありました。歌

の後でミスホースの「戰時に於ける米國青年女子」とでも題し度い樣な有益なお話がありました。語る者と聞く者との態度がピッタリ一致した心地よい空氣が室に滿ちて居る樣な氣がいたしました。來會者約九十名、初めての集合としては實に嬉しい集でございました。此後如何にして此等の會を持續して行くか。如何にして盡きぬ生命の水を掬み、互に光明の中に歩み得るかに付いては神樣の特別なる御力を仰ぎ、會員諸姉の御同情ある祈に俟たねばならぬ事と存じます。何卒御祈り下さい。

橫濱女子青年會の教育科

聖書科求道者信者　火曜日午後六時　辻井先生

英語聖書の組
1. 金曜日午前十時　ミスオルチン
2. 金曜日午後六時　ミスペーカー

英語科
1. 初歩の組　月水金午前十一時半　上野俊
2. リーダー二、三　毎日午前十時十五分　ミセスボーデン　上野俊
3. 女學校卒業者　月金午前十一時半　ミスオルチン
4. 會話專修科　土曜日午前九時　ミスペーカー
5. 在校者の組　火金午後三時半　上野俊
6. 夜學　木土午後六時　上野俊
7. 子供の組　土曜日午後二時　ミスペーカ　上野俊
8. 渡航婦人專修科　毎日午前九時半　ミスペーカ　上野俊

速記科　初等科其他　火金午後十二時半　ミスミチエル

タイプライター　毎日練習　ミスペーカ

ピアノ音樂科　火木午前中　水月午後　ミスオルチン

和服裁縫科　要求に應じて教ゆ　午前九時半—四時　田中たけ子

西洋料理科　木曜日午後二時　西山きく子

右の時間割で四月十一日から新學期を始めました各科共新しき姉妹方を澤山迎へて感謝して居りますタイプライター聲樂ピアノ西洋料理はほとんど滿員で御座います夜學の組には多くの會社におつとめの姉妹方を與へられ夫々勉强すると共によき友となりたく祈りつゝ働いて居ります。

基督教を鞏固にする爲に

神戸女子青年會

美しき春の今日此頃御障りもなく御過しでゐらしやいますか、神の御恵と皆様の厚き御同情と御祈りと御盡力とによりまして、生れて六箇月の本會もやゝに成長致して居ります事を、深く感謝致して居りますけれども、まだ／＼努力を要する事で御座います。

扨會館建築費募金に先立ち、本會の基礎を鞏固にする爲め、維持費の募金を如何なる方法で致さうかと種々考慮致して居りました。

一度皆様に御集りを願ひ御相談申上げ度いと存じましたが、兎角集會の多き事よとの評を耳に致して居りますので、本日初め會計磯部姉御宅で長谷場委員長、磯部、スミス兩會計、財政部幹事、吉良、タッピング、藤田兩幹事相會し時しも御神中なりし、ニューヨーク本部幹事ミス、スタッフオードより參考となるべき事を承り、種々相談の結果差の四項を決議致しました。

總て理想的にまゐらぬは常の事で御座いますが「汝の車を天の星に結び付けよ」又「求めよさらば與へられ」云々と御座いますから、恐れず試みたいと存じます。

御多用の折柄甚だ恐れ入りますが、何れかの方法を御採用無經驗の幹事共を御引きまはし下さいまして、御盡力の程只管御願ひ致します。

(1)委員各自に金壹百圓(維持費一箇年豫算五千圓)の責任を御持ち下さる事

(2)募金の爲御訪問の際幹事同伴御望みの諸姉には、幹事御伴致す事

(3)右の方法御實行六ケ敷き委員は寄附者の御姓名御住所を御一報下さる事

(4)期間は向後一箇月間として五月十日迄とす

落穂集

○ミリケン女史　日本に渡りて以來三十五年間を宗教、教育のため獻身的に働かれし東京女子學院の同女史の祝賀會は四月十九日植物園にて開催されたり。同院卒業生や友人等にて同女史の八十餘歳の母堂を故郷米國に訪問されん費にとて金三千圓及金時計を呈送したるは師弟間の美擧と云ふべし。

○フイシヤ主事　日本基督教同盟本部フイシヤ氏は日本に渡りて二十年間同會に就職されしを以て、其祝賀會を四月二十二日上野精養軒にて開催さる、同氏は齋藤惣一氏と共に四月二十六日米國に出帆一箇年後歸京の豫定なり。

○朝鮮女教員養成所　今回朝鮮の小學校に女教員を採用する事とし修學一箇年の科を設けて、臨時女子教員養成所とす。

○女交換手　陸軍省內にも女交換手を採用するに決せりと云ふ。

○婦人委員　近頃英米佛伊白の五國を代表する四十名の婦人委員は各國に婦人勞働委員會設立の件に付、國際勞働會に提議せり。

○女船長　廣島縣生の花戸いとのは僅に二十二歳にして船舶法の法定資格ある女船長となれりと、日本にて婦人の船長たるは此女を以て嚆矢とす。

○社會奉仕婦人　日本全國にて感化救濟事業數は六百九十三にて千八百餘名の婦人是に從事しつゝある由。

○東京女學校同窓會　同會主催にて學術講習會を開く事とし第一回は兒童の心理（倉橋惣三氏）の講演を四月十三日東京女子青年會館にて開く、開戰より講和まで（吉野作造氏）四月二十二日、二十九日、五月六日女子青年會館にて、婚姻と離婚（穗積重遠氏）五月十日十七日、二十四日、三十一日、法科大學にて、內部生活の現象（有島武郎氏）五月二十八日、六月四日、十一日、女子青年會館にて、物價の話（矢作榮藏氏）六月五日、十二日、十九日、女子青年會館にての講演あり。

○佛教婦人青年會　同會婦人二十餘名の發起にて女子に思想的社會

的學術的の講究を開始し五、六、九、十、十一の五箇月に亘り講義の繼續をなすといふ。

○在外邦人の數　外務省通商局にては今回大正七年六月の調査にかゝる海外各地在留邦人數を發表したるが總數は四十九萬三千七百五十五人にしてそのうち十八萬七千六百九十五名は婦人なりと。

○産米額　産米を五千萬石と見積れば其五分は鼠や蛇などに蝕はれるとすれば二百五十萬石となり造酒の爲に三百萬石費さる。

○遊興稅　四月中旬金澤市に遊興稅なるもの新設されたり、其内容は料理店、貸座敷等に藝娼妓を招き遊興し其費用二圓に達する者は十錢の割にて納稅するものなり。金澤市のみにても五百四戶の料理店、貸座敷等ありて一箇年の遊興費は百萬圓なりと。

友垣

○米澤　本間はる

昨年の事ではございますが、兄を失ひますと間もなく、私には又も强い御試みの御手を下されました。其は上野先生から御聞き下さいまして、御承知の御事とは存じますが、愛する母とも肉體に於て、はなれさせられてしまひました。情に於ては非常の悲しみではございましたが、眞に愛する母の幸福になりますため、そして神樣の深い御旨のあるところを固く信じてをりますならば、よく忍ばねばならぬといふ事に思ひつきました時には、よほど心も輕くなつた樣でございました。そして只今では、年老いたる父の眞の慰め手として、私をこの境遇におかしめ、常に神樣が御守り下さいます事を信じて、一日を樂しく感謝深く送りたいと存じて居ります。

私は此度の數々の强い御試みに依つて、眞にキリストによる心の平和は、地上の何物にもかへられない、尊いものであることを、深く感じました。そしてこれ等の過去の苦しい經驗によつて、現在悲しみある人々に、心から同情いたすことが出來る事を、せめてもの喜びとして居ります。

細木田川樣から、よく細い御手紙を頂きます度に、あの方のいつも乍らの美しい信仰に敬服いたし、ともすればいつもの私の弱い心を支へていだゝいて居ります。上野先生もよく御忙しい御生活の中にも、私のために長い御手紙を書いて下さいます。五月末に米澤に一寸なりとも歸りたいと云ふ御咄しでございましたが、一週間許り前の御便には、とてもその時が與へられない樣であるとの御事、よほど落膽いたしましたが、毎日實行出來ます樣祈つて居ります。

○在米　大呑ひさ

皆々樣の素晴しい御活動ぶりは女子靑年界や御手紙で承知致し全く腕がなるといふわけで歸つてからの責任がこゝに居りますより數倍大きい事又澤山させて戴く事がある事等考へますと恐ろしい樣な又樂しい氣が致します弱い私でも出來るだけ働くつもりで御座いますから適當と思召す處へ御遣し下さいまし一日も早く歸りまして何かするといふ事を樂し

んで望んで待つて居ります人間の第一の害は働く事と存じます私は今日フイリッピンから歸つて居られる方の同地に於ける御働きぶりに就いて話して頂きました其方は朝五時半に起き十時半に床に入る迄あまり身體が丈夫でないのに大抵二食或時などは僅か一日に牛乳二杯しか呑めぬ身體で同じ時間校長といふ責任を負ひ働かれた事です然し其話をされる間も其方の御顏が喜びと希望で輝いて居る樣に見えました其御話の終りに其苦しく見える働きも少しも苦しいと思はず樂しくフイリッピンで數へた生徒程可愛い者はないと仰られました愛のこもつた基督者の働は眠よりも食事よりも人に幸な感じを與へます私共朝睡いとかいつてはせめて今一時間床に居られたらとか勉强する事が澤山あるとて明日ある學課がなかつたらよかろうにとか申しますが斯らいふ事を伺ふて恥かしくなります寢食を忘れて働くといふのは仕事に熱心な又仕事を愛する結果で身體を傷ぬ限り誠に美しい事と存じます今日からプラオン博士の體育の御講義が始まり色々御話のあつた中自分の心の中から身體といふものを女子が取のぞく事そうすれば充分の仕事が出來るといはれましたそれには健康、健康には氣持のよい着物履物食物住居其他が必要でございます實際身體の丈夫な人は身體の事は忘れますが兎に角缺點があれば痛いとか又それに氣が取られて自然に他の事に手がつかなくなります。この樣な事を申しますとさも私が不健康でゝもあつて申した樣ですが左樣では御座いません私は誠に丈夫に暮して居りますたゞ御話が段々横道へそれました迄で御座います。もう四ケ月たちますと御なつかしい皆々樣に御目に掛る事が出來ますたゞ變つた日本の樣子や盛な青年會の事や存じ上げて居らぬ會の方々等想像して待ちかねて居ります歸りますのは多分七月二十五日サンフランシスコ出帆のコレア號で御座いませう日本に歸りますと間も無く仕事にかゝれるわけで御座います。長い〳〵三年間も短かく暮しましたさあこれから何をさせて頂きますかしら樂しさが思ひやられます、よく私共三人が集りますと話は直ぐに歸る事歸つてからの事になりますカナダや當國に參りまして受けた人の親切や智慧は中々大きいもので今更ながら苦しいとか窮屈とか申しました自分の考への小さい事を口惜しく存じます實際に當校の樣な學校に居りまして全く信用されて自由を與へられますと自分の責任の重い事を感じ一擧一動に氣をつけろ樣になり又あまり良くない日本學生等の話もきいたり致しますと自分が惡い事でもした樣に日本の國家に對してすまぬと云ふ樣な事を小さな事でも考へる樣になります弱きものよ汝の名は女なりと云ふ一句から自分を弱い者の中の强い者に致し度いと考へて居ります。

消息（二）

○羽太鈴枝氏　女子學院卒業後名古屋清流女學校に教師たりし同氏は四月より東京女子青年會に就職

○大阪女子青年會　四月中旬北區天滿橋筋一丁目九番屋敷に移轉せり五月八日は同所を開放し會員會友の親睦會を催す由

○吉川淸水氏　四月日本女子大學家政科卒業後大阪女子青年會に赴任

○山口あき氏　横濱共立女學校出身にて同校を三ケ年數へられし同氏は今回神戸女子青年會に赴任

○坂本もと氏　山口縣實科高等女學校に赴任

○佐々木民氏　大阪女子青年會の委員として創立當時より盡心されし同氏は四月より東京女子大學實務科第二部撰科に入學

○水嶼英子氏　函館遺愛女學校に助教員たりし同氏は今回東京女子大學に入學

「女子青年界」定價及廣告料

定價（郵税共）		
	内地	海外
一部	金十錢	金拾三錢
一年前金	金壹圓	金壹圓四拾錢

廣告料	
一回掲載	
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓
年極又は回數により割引有	

大正七年四月廿八日印刷納本

大正八年五月一日發行

發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會　電話本局五九八〇　振替東京二三七二三番

發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子

印刷人　芝區櫻田和泉町七番地　前川吉太郎

印刷所　右　三成舍

The society recently formed among graduates of girls' schools in Tokyo met at the association several times during the month. Courses of lectures on Child Psychology, the Paris Peace Conference, Marriage and Divorce, prices of foodstuffs are to be given during the next two months.

An Easter service was held in the association on Easter Day and Miss Kawai gave a most inspiring talk on the meaning of Easter in our lives, and to the life of our country. Over two hundred girls were present.

YOKOHAMA ASSOCIATION

The sping term has opened auspiciously with over thirty new enrollments in classes. The new typewriter contributed by the American Trading Company is used from seven in the morning almost constantly until late evening. One new Bible class and a new English class in the evening for girls who are working in the day have been opened.

Beginning the 23rd of April, for three days, special meetings were held at which Mrs. Forester presented the claim of Christianity as the Great Discovery in life.

Our sympathy goes out to the families of members of our committee who sorrow has visited during this past month. Mrs. Nomura's mother died in Odawara, and Mrs. Francis Mendelson, an old resident of Yokohama, died at her home on the Bluff.

We have had a visit from Miss Mitsue Tanaka of Honolulu. Miss Tanaka is a teacher in the public schools of Honolulu, and a member of the committee of the Young Women's Christian Associa- She is making a visit to her sister, who is in school in Hiroshima, and we hope to see more of her before she returns to her home in the fall. We are especially glad of this opportunity to strengthen the tie between the Honolulu association and ours.

There are applications from eight young women to study with us to prepare themselves for life abroad, and already six have entered classes in English, cooking, and sewing. It is our plan to have a lecture from some outside person of wide experience every Monday afternoon. These lectures will be open to the generel public. Mrs. Sneyd is taking up the Hygiene lectures again, and, as she is a trained nurse, these are especially valuable.

Dr. Kurosu of San Diego, Cal. called on us a few days ago. He has returned to Japan on a visit, and soon goes to Harvard for special work. He says that Japanese young women need more knowledge of health and the care of children.

We are welcoming two new workers to our force. Miss Kiyono Fuji, as matron in the dormitory, and Mrs. Fusa Aoki in the office.

OSAKA ASSOCIATION.

The assoctation has outgrown its former house near Umeda station, and has moved into a larger house belonging to a well-known Christian physician of the city. This house is 99 Itchome, Tenmabashi-Suji, Kita-ku; Telephone Higashi 1832

Miss Kigomi Yoshikawa, a graduate of the Woman's University, has joined onr staff as office secretary; and Miss Aki Ymaguchi, a graduate of Miss Loomis's School, Yokohama is expected soon to take up work of Educational Secretary.

Our Annual Meeting and housewarming party will taken place on May 8th. We are very proud of the rapid growth of the association, as is evidenced by our having to move into a larger house within a year.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Vol. XVI May 1919 Number 5.

The four friendly visitors from America spent the month of April in Tokyo, visiting schools, factories, and institutions, and meeting Christian leaders, both Japanese and foreign. After spending two days in Nagoya, they will go to Hachiman on May 2nd to see the Omi Mission, and the whole month of May will be spent in Kobe and Kyoto and vicinity.

The Secretarial Conference will take place at Arima from May 1st to 4th. Miss Charlotte Adams of New York will lead the Con. ference, and Miss Fonda will return from Siberia to attend the Conference As it is difficult for all the Japanese association workers to meet at one place there will be a conference in Tokyo, and another in the south of Japan. It is hoped that during May a one day conference for tha officers of the Student Associaiions in Tokyo and Yokohama may be held in Tokyo. This will strengthen the young leaders in their work, and they will have a wider knowledge of the association.

The National Committee meeting will be beld at 9.30 Saturday morning, May 17th, as the Tokyo Annual meeting will take place in the afteruoon of the same day.

Miss Kawai attended four evangelistic meetings in different places during the month of April. It is a great satisfaction to know that the association us becoming more and more understood by the different Christian bodies.

Miss Masa Sato, who has been helping with the magazine for the past year, was married to Mr. C. Tanaka, a member of Mr. Uemura's church, on April 21st; and her place has been taken by Miss Yone Suyama, who is a graduate of Miss Tsuda's School, and has been teaching in one of the government schools in Okayama.

Mrs. Tei Fujita, a National Board member, and also a Yokohama boad member is moving to Kobe, as her husband has been promoted. Yokohama's loss is Kobe's gain.

TOKYO ASSOCIATION.

Classes opened after the spring vacation on April 7th, and on the 10th the Tokyo board, the sub committees, teachers and secretaries of the Tokyo association, with the National committee, gave a farewell supper to Mrs. Shidachi, president of the Tokyo association, who left for England March 18th to be absent till the end of the year. She will return to Japan by way of the United States.

A welcome party was given for new students on Saturday, April 12th, and over 150 students were present, 76 of this number having come to the association for the first time. The girls in the English classes gave several short plays. Reports of classes were made, and Miss Mori of Toita Sewing School gave a short talk. Afterwards the girls joined in several games, and had refreshments. At the monthly meeting of the English speaking society, Mr. Stone of Candian Pacific Ocean Service Co., Yokohama, showed some very interesting slides and moving pictures of scenery among the Canadian Rocky mountaings, along the Canadian Pacific route.

Miss Hawes of the American Y.W.C.A. spoke to group of girls at the central station at a noon meeting, and to another group at the Kanda station.

女子青年界第拾六卷第五號（毎月一回一日發行）
大正八年四月二十八日印刷納本　大正八年五月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可